

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
1	計画全体	テーマ	「しなやかな変革、それこそ夢と希望を叶える道となる」という仰々しいテーマを冒頭に掲げる理由が不明。また「質の高さ」「豊かさ」「夢と希望」の西予市における定義を市民と話し合って共有し、言葉だけ立派な計画にしない工夫が必要。	A:記載(表現)を修正します	本テーマは、人口減少や厳しい財政状況などの現実を直視しながらも、地域の強みを生かして未来を切り拓く姿勢を表したものです。また、「質の高さ」や「豊かさ」は市民一人ひとりが実感するものであることから、その考え方がより伝わるよう解説を修正します。
2		テーマ	テーマというより、手段のように感じ、わかりづらいと思いました。	A:記載(表現)を修正します	本テーマは将来像そのものではなく、将来像の実現に向けた姿勢を表すものですが、ご指摘のとおり意図が伝わりにくい面もあると考えています。そのため、「しなやかな変革」に込めた考え方が分かるよう解説を見直します。
3		テーマ	もっとも深刻な課題は、第二次総合計画と変わりばえないテーマそのものではないか西予市職員が事業を検討、実施するときにこのテーマにプライドを感じ、拠り所として業務に取り組めるだろうか住民が「夢と希望」を抱ける市ではない厳しい現実を踏まえたテーマに再考されることを強く希望します。	D:原案どおりとします	ご意見のとおり、テーマは市民や職員が共感し、自らの行動につなげられるものであることが重要です。今後はテーマに込めた意図を丁寧に発信しながら、市民の皆さまとともに計画の実現に取り組んでまいります。
4		テーマ	基本的な考え方としては共感します。最後の段落にある“人口規模が縮小しても質を高め、豊かさを実感できる「縮充(しゅくじゅう)」のまちづくり”という部分に関しては、何が「豊かな暮らし」なのかを、市民と行政と一緒に考えることが改めて重要だと思います。	C:今後の施策検討の参考とします	ご指摘のとおり、「豊かな暮らし」の内容を市民と行政と一緒に考えていくことは重要であると考えています。本計画で掲げる「縮充」の考え方についても、対話を重ねながら共有し、実践につなげてまいります。
5		テーマ	「何もしない」という選択は、将来の子どもたちに大きな負担を残すことにほかならない。その通りであるが、このテーマからは夢と希望が読み取れない。いったい西予市民が望む夢や希望はなんなのだろうか。どのような“質”、どのような“豊かさ”を求めているのだろうか。向かう方向が読み取れなかった。 当たり前のように記載された「縮充」という言葉選びにも疑問をもつ。一般的な言葉まで広まっていけないような気がした。せめて【人口規模が縮(んでも)充(実した暮らしを送られる)まちづくり】など、言葉の意図する部分が縮充という言葉は初めて聞いた方にも分かるように記載を望む。 充実した暮らし＝質や豊かさなのかなと思うが、相互性がパッと見てわからないため、どこが重要なところなのか伝わりにくいと感じた。	A:記載(表現)を修正します	「縮充」や「質の高い暮らし」という表現は、本計画の重要な考え方ですが、分かりづらいところのご指摘もいただいています。そのため、人口や施設規模が縮小する中でも、市民一人ひとりの暮らしの質や満足度の向上を目指す考え方であることが伝わるよう表現を見直します。
6		基本理念	第2次計画の振り返り報告書で、基本理念(常に危機感、常にチャレンジ等)がどう作用したかの評価・記述がない。なぜ前計画と同じものを設定するのか。行政のバリュー(行動規範)に見え、行動指針と重なりPDCAに機能しない。	C:今後の施策検討の参考とします	基本理念は、本市のまちづくりを進めるうえで普遍的に重要な考え方であることから継承しております。一方で、ご指摘のとおり、第2次総合計画では理念を十分に施策へ生かし切れなかった面もあったため、第3次総合計画では進捗管理や施策推進を通じて理念の実践に努めます。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
7		基本理念	計画案では、市民一人ひとりをまちづくりの当事者として位置づけ、行政に依存するだけではなく、市民、地域、事業者、行政などが役割を分担していく方向性が示されています。人口減少が進む西予市では、この考え方は非常に重要だと思います。 一方で、市民自治とは、行政がこれまで担ってきたサービスや管理を単に市民へ移すことではないと考えます。 地域の自然や文化、景観、コミュニティを守るためには、市民や地域団体が主体的に活動することが不可欠ですが、行政には、制度や財源を整えること、専門的な支援を行うこと、公平性を確保すること、市民だけでは解決できない課題を調整することなど、行政にしか担えない役割があります。 「市民と行政が共に改革者」であるからこそ、それぞれが何を担うのかを考え、市民が行政の下請けとなるのではなく、自ら考え、活動できる環境を行政が支えるという関係性を大切にしていきたいと思えます。	B:基本計画等の中で検討します	ご指摘のとおり、市民自治は行政の役割を市民へ移すことではなく、それぞれが役割を担いながら協働することが重要です。具体的な取組については、今後策定する基本計画等の中で検討します。
8	計画全体	基本理念	「これらの理念は、判断に迷ったときに立ち返るべき最も大切な精神的土台であり、共通の価値観である。」 本当に、判断に迷った時にこの基本理念が拠り所になるのだろうか。職員に聞いてみたい。私は常に疲れる基本理念だと感じた。がむしゃらに進んでいく姿勢が強いので、(オ 常に振り返る)ぐらいあってもいいと思った。	D:原案どおりとします	ご意見のとおり、挑戦だけでなく振り返りと改善も重要です。基本理念は継承しますが、計画の進捗管理や定期的な見直しを通じて、成果や課題を確認しながら実効性の向上に努めてまいります。
9		西予市まちづくり行動指針	「綱領八策」の名前を変えただけで内容はそのまま。基本理念と内容が重複しており、文章が多すぎて羅針盤としての言葉が弱い。「五、成長し、」をそのまま使うのは「縮充」の考え方からして苦しい。	A:記載(表現)を修正します	「縮充」を掲げる中で「成長」という言葉を用いることへのご指摘を踏まえ、「選択と集中」を徹底して安定した行財政基盤を確立するとともに、単なる人口や規模の「量的拡大」ではなく、市民一人ひとりの心の豊かさや満足度を高める質的な充実・向上を目指す趣旨が明確となるよう、見出しおよび本文の表現を修正いたしました。
10		西予市まちづくり行動指針	ジオパークを西予市全体を説明する基本概念に位置付けており、評価できる。	C:今後の施策検討の参考とします	四国西予ジオパークは本市の特色ある資源の一つであり、今後の施策検討の参考とします。
11		西予市まちづくり行動指針	五.成長し、の部分「性別や年齢に関わらず」とあるが、「国籍」も入れたほうが良いと思う。西予市にもたくさん外国の方いるので。そうすると「障害」も不可欠だ。「選択と集中」をしながら地域の成長を実現するには、そこで暮らす人々を透明化してはならないと思う。 読み進めると八.生涯暮らせるまちづくりを実現する。の部分では「誰もが」の説明に性別や年齢もないので、もしかすると五.の部分にわざわざ「性別や年齢に関わらず」と入れる必要もないのかもしれないと思った。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘を踏まえ、特定の属性を列挙するのではなく、「誰もが自分らしく活躍できる環境を整える」という包括的な表現へ見直します。多様な人々が尊重される社会の考え方がより伝わる内容へ修正します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
12	9つの分野の構想	未来の姿	未来の姿が第2次計画と比べて驚くほど長文で細かい。物語調の採用理由が不明。物語調ではふり返り(評価・PDCA)の際にも物語風の文章を作る必要が生じ、事務手間を増大させる懸念がある。基本構想→計画→施策のつながりの曖昧さは第2次計画の欠点。日々の予算査定等で構想まで辿り着けない。	D:原案どおりとします	物語調の表現は、数値目標では表しきれない市民の暮らしの変化や地域の将来像を分かりやすく共有するために採用しております。市民が思い描く幸せや豊かさは多様であることから、多様な価値観に共感できる将来像を描いております。一方で、進捗管理や評価については、今後策定する基本計画において具体的な指標や目標値を設定し、客観的な評価と適切な進行管理を行ってまいります。
13		未来の姿	基本構想における9つの分野の大綱が、後につながる基本計画と直接接続する軸になっていないのが第2次計画の大きな欠点だった。具体的な施策がどう構想に結びついているか振り返ることができない。基本計画の体系と一緒に示すべき。	B:基本計画等の中で検討します	ご指摘のとおり、基本構想と基本計画のつながりを分かりやすく示すことは重要であると考えています。体系図等の作成については、今後策定する基本計画等の中で検討します。
14		未来の姿	市民参加の意見交換会に参加しました。 全員が違和感を感じたのが基本構想の夢物語 基本構想を実現させる施策、事業の可能性を感じられません。	D:原案どおりとします	基本構想は9年後のありたい姿や方向性を共有することを目的としています。ご指摘の実現性については重要な視点であり、具体的な事業や財源については今後策定する基本計画や実施計画の中で示してまいります。そのため、基本構想は原案どおりとします。
15		未来の姿	「四国西予ジオパークが育む豊かな農林水産業」という表現に少し違和感があります。 「西予の大地と風土が育んだ農林水産業」の方が適切だと思います。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘を踏まえ、表現を見直し、「四国西予ジオパークが育む豊かな農林水産業」を「西予の大地と風土が育んだ農林水産業」に修正しました。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
16	9つの分野の構想	未来の姿	まず、なぜ物語なのか。壮大な夢物語では読み取りに幅があるため、計画の方向性や重要箇所などの認識を一致させることを基本構想では大事にしてほしい。他の市のようなわかりやすい図式を次回より希望する。第二次からのふりかえりの文章も確認したが、ふりかえりがいかされた第三次の文章には思えなかった。 物語の文章について、一段落目「市民の顔には活気と余裕が満ちている」四段落目「家族団欒の音が響く」などからも、西予市がどのような人間を望んでいるかが伺える。物語にすることで描写が増え、家父長制の根深さが滲み出ているように思える。私は、「一人暮らしでも孤独にはさせず安心して生活できる暮らし」や、「様々な問題に悩みながらも行政や周り助け合いながら生きていく」そんな生活ができればいいと思う。 三段目「高齢者や障がいのある人も孤立することなく」とあるが、この総合計画では西予市で暮らす外国人の方の存在が無視されすぎているように思う。透明化したり排斥するのは排外主義がじわじわと広がっているのではないかと心配になる。 マイノリティの認識についてはどうだろうか。例えば性的マイノリティp15「多様な価値観が広がる現代において～」と解説文で少し書かれているが物語本文に登場しないのである。解説には「選択は個人の自由」と書かれているがパートナーシップやファミリーシップの制度もなく、同性婚や夫婦別姓について議論することもないのは堂々と人権を侵害していると思う。選ぶことのできる環境を整えてもいないのに「誰もがこのまちで生涯暮らせる幸せ」を誇りに思う～文章の締めくくりには押し付けがましさまで感じた。 社会の仕組みの方に障害があるのであって、個人に障害があるわけではないということ。自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションをとり、全ての人が抱える困難を想像し共感することが必要だと思う。この物語全体から笑顔でいなさい。地元を誇りなさい。という圧力がひしひしと感じられる。みんな笑顔になりましためでたしめでたしみたいな話ではなく、「さまざまな社会課題に取り組み、住みやすいまちづくりに一歩ずつ実現してまいります。」と言ってほしい。 超高齢社会の今、「歳を重ねても安心して暮らせる社会」を望んでいる。高齢者、障害者だけでなく、例えば「性的少数派の高齢者」などとひとりひとりが複雑な課題を抱えている。しかし、課題はその人自身にあるのではなく、社会の方に課題があるため、その人に不平等であったり、我慢を強い形となっているのだと考えなければならない。収入も低く、物価高で先の見通せない今、子どもの立場としては「あなたに支援を頼らなくても生きていけるから心配しないで」と親に言ってもらえればどんなにほっとするだろうか。家族で支え合うのが当たり前のような雰囲気は行政から発信してほしい。	A:記載(表現)を修正します	物語調の表現は、数値目標では表しきれない市民の暮らしの変化や地域の将来像を分かりやすく共有するために採用しております。 一部の表現について、多様な価値観や生き方への配慮が必要とのご意見を踏まえ、特定の人物像や家族像に偏らない表現へ見直します。誰もが自分らしく暮らせる社会の姿が伝わるよう表現を修正します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
17	9つの分野の構想	結婚・出産・子育て	人口減少でセクションをわざわざ作っているが、全ての施策に関わる要素。分けるのであれば「人口ビジョン」と連動し2035年の目標人口を設定すべき。それがなければ予算や優先順位が連動しない。また、第2次計画にあった「男女共同参画意識の高まり(母親に子育てを押し付けない等)」が省かれた理由は何か。	B:基本計画等の中で検討します	目標人口や数値目標に関するご指摘は重要な視点であると認識しております。本計画では、基本構想を「定性的な将来像や目指すべき理念」を示すものと位置付けております。ご指摘いただいた目標人口等の具体的な数値目標や進行管理指標については、下位計画である基本計画や実施計画の中で明確に設定し、実効性のある進行管理を行ってまいります。 また、第2次総合計画に掲げていた「男女共同参画意識の高まり」については、その考え方を後退させるものではありません。第3次総合計画(素案)では、男女共同参画を含め、多様な人々が活躍し、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりという、より幅広い視点で整理しています。今後も、多様性を尊重したまちづくりを進めてまいります。
18		結婚・出産・子育て	P15 1行目平成24年から平成28年の数値を記載してある。10年前の数値を使用しての議論はおかしいですし、西予市の計画書として恥ずかしい。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、できる限り最新の統計データを活用することが重要であると考えています。そのため、利用可能な最新データを確認し、合計特殊出生率等の数値について更新を行い、より実態に即した内容となるよう修正します。
19		社会移動	登場人物の描写が、Uターンや移住者に対してステレオタイプ(健康、健常、若い等)に偏っており、多様な市民の視点から読んで気持ちの良い文章ではない。「豊かな暮らしに価値を見出し」ではなく、価値はもともとあるので「価値に気づき」にするべき。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、多様な暮らし方や価値観に配慮した表現が重要であると考えています。ご意見を踏まえ、特定の人物像に偏らない表現へ見直すとともに、「豊かな暮らしの価値に気づく」という趣旨が伝わる内容へ修正いたします。
20		まちデザイン・地域交通	リノベーションについて、具体的に何になったかを細かく書くイメージを固定化してしまうので、その必要はないのではないかと。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、基本構想で建物の用途を具体的に限定すると、将来の可能性を狭めるおそれがあります。そのため、個別の活用例ではなく、地域の面影を残しながら多様な用途へ活用される姿が伝わる表現へ修正いたします。
21		まちデザイン・地域交通	P17延床面積を20%削減すると記載があるが、いつと比べて20%削減かわかりません。基準となる年または面積を記載しないと検証できません。	A:記載(表現)を修正します	「公共施設削減」の記述は、まちづくりの方向性から切り離し、自治体経営の根幹を扱う「行財政」分野へと移行・整理しました。また状況変化へ柔軟に対応するため、大枠の理念を示す「基本構想」段階における具体的な削減数値(延床面積20%等)や進捗管理方法の固定は避け、構想内からは削除しました。
22		産業・交流・稼ぐ力の創出	すでにある「ジオの至宝」などのブランド事業を中途半端に放置して似た目標で別の事業をやるのは事業を増やすだけ。やったことをふり返るPDCAプロセスを構築し、方向転換した事業には総括・区切りをつけるべき。広域的な周遊ルートだと西予市は通り道になってしまう。西予市をまるごと満喫できるメニューに力を入れるべき。	C:今後の施策検討の参考とします	ご指摘のとおり、既存事業の効果を検証しながら施策を進めることは重要であると考えています。今後も既存施策の評価と見直しを行いながら、西予市ならではの魅力を生かした滞在型・体験型観光の充実に取り組んでまいります。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
23	9つの分野の構想	医療・保健・福祉・共生社会	市民アンケートで医療体制の重要度が高い一方で満足度が低く、不満が56.9%もある現実を直視すべき。2035年までに高齢者や山間部の自宅でのオンライン診療が本当に構築可能なのか。物語として明記する以上、基本計画と施策に反映されている必要がある。	B:基本計画等の中で検討します	地域医療に対する市民の不安や課題は、行政としても重要な課題と認識しています。オンライン診療については、通信環境や技術の進展を見据えながら段階的な導入を検討するとともに、具体的な施策については、今後策定する基本計画等の中で検討します。
24		誰もが活躍できる共生社会	共生社会の定義として「能力」や「自立(健常者目線)」という言葉に掲げるのは慎重であるべき。「自立とは依存先を増やすこと(寄りかかり合い)」である。また「輝ける」と続くと一般の世間の評価軸が突然現れる格好になる。言葉の選択を再考すべき。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、共生社会は個人の能力のみを前提とするものではなく、お互いに支え合う関係の中で成り立つものと考えています。そのため、「自立」や「輝ける」といった表現を見直し、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の姿が伝わる内容へ修正いたします。
25		誰もが活躍できる共生社会	P21市の財政や地域社会全体に大きな影響を及ぼしている、とあるがどんな大きな影響なのかわかりません。具体的に大きな影響の中身を記載してほしい。	A:記載(表現)を修正します	高齢化が地域社会に与える影響について、より具体的に示すべきとのことご指摘を踏まえ、医療・介護需要の増加や担い手不足などの課題が分かるよう解説を修正します。
26		誰もが活躍できる共生社会	高齢者と障害者について記載しておけばよいということでしょうか。電通グループの国内事業を統括・支援する dentsu Japan内の組織である dJ DEI オフィスは、全国の 20～59 歳 46,658 人を対象に、LGBTQ+を含む性的マイノリティーに関する「LGBTQ+調査 2026」を実施しました。当事者層の割合は 10.6%だったそうです。 https://www.japan.dentsu.com/jp/assets/pdf/news/2026006-0526.pdf つまり、西予市にも当たり前に暮らしているわけです。高齢者と障害者にふれて計画をたてるなら、性的少数派や外国人についても同じくらいの文章量でどんな共生社会をデザインしていく未来なのか教えてほしいです。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、高齢者や障がいのある方だけでなく、外国人市民や性的少数者を含む多様な方々が地域で共に暮らしていることを踏まえた表現が重要であると考えています。そのため、誰もが尊厳を持って暮らせる共生社会の姿が伝わるよう記載を修正します。
27		危機管理	南海トラフ巨大地震に向けて内閣府が注力している「誰一人取り残さない防災(インクルーシブ防災)」の考えや、広大な面積と職員のバランスを考えた「防災DX」について記載してほしい。	A:記載(表現)を修正します	「誰一人取り残さない防災(インクルーシブ防災)」や防災DXの考え方は、本市の防災力向上に重要な視点であると考えています。ご提案を踏まえ、危機管理分野において、誰もが安心して避難できる体制づくりやデジタル技術の活用に関する記載を修正します。
28		地域コミュニティ	「学びと実践の分断(担い手の少なさが、学びと活動が連動しない因果関係)」の論拠が不明確。地域づくり活動センターに移行して3年、うまくいっている地域とそうでない地域の課題を分析し、何が足りないのかに基づいた基本構想にすべき。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、「学びと実践の分断」という表現だけでは実態が伝わりにくい面があります。そのため、生涯学習等の学びが地域活動につながりにくい現状が分かるよう表現を見直します。地域ごとの課題分析や支援策については今後の基本計画で検討します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
29	9つの分野の構想	地域コミュニティ	P23「地域づくり活動センター」において行政に依存するのではなく、住民自らが課題の解決に取り組む主体的な地域づくりを進めていくと記載がある。このセンターの組織図がよくわかりません。石城の例ではセンター長、市役所正職員、会計年度任用職員がいて、地域づくりの職員が1名います。まるで行政の出先機関のようです。目的を達成するためにどのような体制を目指しているのか明示していただきたい。また地域づくりの職員は地域で公募して採用するとセンター化の時点で聞いていましたが、最初だけ公募がありました。その後は公募があったか記憶にありません。この職員に対する指揮命令、監督は誰が行っているのか、誰が採用を決めているのか、賃金はどこからいくら出ているのか、任期は何年なのか等全く情報がありません。センターは一般の地域住民にもっと情報開示する責任があると考えます。	C: 今後の施策検討の参考とします	ご指摘いただいたセンターの運営体制や職員配置等は、基本構想で取り扱う内容とは異なるため計画への記載は見送りますが、情報公開や運営のあり方に関するご意見として担当課へ共有し、今後の運営や施策検討の参考とします。
30		地域コミュニティ	「老若男女、そして新しく移住してきた人々も含め」というくくりには違和感がある。「このまちでは、誰もが地域づくりに参加している～」でも文章的に問題ないと思う。 「すべての人の人権が尊重されている」と軽くあるが、解説文を読んでも尊重されるようには感じられない。現在ある人権侵害問題の重大さ、それに対応する本気度も感じられない。 「誰もがこの地域に暮らす喜びと誇りを感じている」の場合は、「喜びと安心」ぐらいのほうが良いと思う。 解説文のアンケートについて、どのような場面で誰に対してどんな問いを行い「今のままの温かい西予市でいてほしい」「地域の人同士のつながりが充実した町になってほしい」という回答になったのか記載してほしい。使い勝手のよさげな回答だけが選ばれたように思える。	A: 記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、「誰もが参加できる地域づくり」の考え方が伝わる表現が望ましいと考えています。そのため、属性による区分を抑えた表現へ修正するとともに、人権尊重の考え方がより伝わるよう解説も見直します。
31		教育・人材育成	子どもたちのシビックプライドを育てるには、大人が自分のまちを誇りに思うことが先決。子どもばかりに求め背負わせるのではなく、大人側へのアプローチが必要。地域をうまく回すファシリテーター的な人材育成やリスキリングの機会が「中央で担保する仕組み」がほしい。	A: 記載(表現)を修正します	ご意見のとおり、子どもの郷土愛は大人の学びや行動によって育まれる面があると考えています。そのため、大人が学び続ける姿や人材育成の重要性が伝わるよう構想や解説を修正します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
32	9つの分野の構想	社会インフラ・DX・環境衛生	①スマホサポートの「とぎ(地域での助け合い)」は自然発生するのか。知識はどこまで。「とぎ」が定着すれば市のサポートは終了するのか。 ②水道管の劣化調査に最新テックが入るのかなど、現実の施策と連動しているか疑問。 ③四国西予ジオパークの2035年に向けた位置付けが不明確。	A:記載(表現)を修正します	「とぎ(地域での助け合い)」は行政が管理する制度ではなく、市民同士が自発的に支え合う温かな関係性を表したものであり、これによって行政としての適切なサポートや相談窓口等の役割(公助)を終了させるものではありません。スマホ操作支援等も含め、行政による適切な支援を継続しながら、地域の共助との調和を図る旨を明記いたします。また、水道管の老朽化調査をはじめとする最新のデジタル技術(DX)の活用につきましては、現実のインフラ管理施策と連動させながら段階的かつ効果的に進めていく方針を補強いたします。併せて、四国西予ジオパークにつきましては、大地の恵みやストーリーを地域産品のブランド化やサステナブル観光の核として活用し、地域経済の循環につなげる位置付けがより伝わるよう記述を修正いたします。
33		社会インフラ・DX・環境衛生	「気候変動への対応や自然環境の保全は、将来世代への責務として取り組むべき重要な課題である」とありますが、その一方で、西予市の自然環境を今後どう維持・回復していくのかとう、2035年の具体的な姿が十分に見えてきません。 例えば、生物多様性、森林・農地・河川・海のつながり、水循環、里山・里海、生態系サービス、自然再生(ネイチャーポジティブ)、景観、自然と人との関係などについて、将来どのような状態を目指すのかを、もう少し明確に示しても良いのではないのでしょうか。 また、自然環境は単に「保全すべき対象」ではなく、日常的に自然と関わることでそのものが、人の健康や幸福、子どもの育ち、地域への愛着、地域文化の継承などを支える基盤でもあると考えます。 こうした視点に立ち、行政だけでなく市民や地域のさまざまな主体が関わりながら、自然環境の保全・再生をまちづくりの土台としていく方向性を、2035年のまちの姿として位置づけていただきたいと思います。 「四国西予ジオパークが育んできた自然の価値」という表現には、少し違和感があります。ジオパークそのものが自然を育んできたというよりも、西予市にある大地や自然の価値を、ジオパークの活動を通じて理解し、保全し、地域づくりに生かしていくという関係だと考えます。そのため、例えば、「四国西予ジオパークを通じて、その自然の価値を再認識し、」といった表現の方が適切ではないのでしょうか。	A:記載(表現)を修正します	自然環境を単なる保全対象ではなく、市民の暮らしや文化を支える基盤として位置付けるべきとのご意見を踏まえ、生物多様性や里山・里海のつながりなどの視点を補強します。また、ジオパークとの関係性も分かりやすく、自然環境に関する考え方が伝わるよう記載を修正します。
34		行財政	複雑な課題が交差する中、職員の意欲・熱意向上のしくみや学びが書かれていないのが残念。業務負担を「DXによる余力」の一行で片付けるのは安易。適正な事務規模、定員管理、属人化解消などの構造的なメスが必要。第2次計画と比べて後退して見える。	B:基本計画等の中で検討します	ご指摘のとおり、人材育成や組織力の向上は計画の実効性を高めるうえで重要な課題です。基本構想では方向性を示していますが、適正な定員管理や業務の標準化、属人化の解消などの具体的な取組については、今後策定する基本計画等の中で検討します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
35	その他	その他	「第2次計画総括の構造改革の定義が曖昧」「評価内容の簡素化の具体的な効果は。」「財政危機脱却プラン2025が上位にあるような文脈」「委託先(外部専門機関)市民ワークショップなどのスキルの習得」「アンケート項目の工夫、資料公開、YouTube解説」などへの懸念と指摘。	A:記載(表現)を修正します	ご意見を踏まえ、財政危機脱却プランとの関係性や評価の考え方がより分かりやすく伝わるよう表現を見直します。また、市民参加や情報発信のあり方についても、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
36		その他	全体的にですが、これだと人手もお金も、もっと必要になってしまうのではないのでしょうか。もっと、ハッキリどこを削減するのか、示して頂けたらと思います。改革しないと、自治体の破綻や消滅の危機ですので、改革には賛成ですが、具体的な内容が分らぬまま、白紙委任は出来ません。また、日本人の人口が減っているのですから、他地域の日本人に移住して貰うことを考えるよりも、人口の増加している外国から人材を求めるのが、一番合理的だと思います。特にインド人は、世界の人口の「6人に一人がインド人」と言われていますので、最も有望です。	C:今後の施策検討の参考とします	具体的な削減内容や人材確保のあり方に関するご意見として承ります。公共施設や事務事業の見直しについては、各計画に基づき進めるとともに、多様な人材が地域で活躍できる環境づくりについても今後の施策検討の参考とさせていただきます。
37		その他	①和暦と西暦の混在 表紙も混在しているし中の説明も混在している。西暦に統一するか和暦表示の時は()で西暦を表記してほしい。 ②P3市の発展を妨げている真の要因を見極めとあるが、真の要因がなんと考えているのかよくわかりません。P4以降に「真の要因」の項目を設けて記載してほしい。P8に根本原因を「抜本的な選択と集中(適正規模への縮小)の先送り」にあるとしているが、私は市役所の職員の皆様も合併した当初からその必要性を認識していたにもかかわらず、実行できなかった、あるいは実行しなかったことが根本原因と考えます。なぜ先送りになったのかを明確にする必要があると考えます。それがわからないと今後も同じことが繰り返される危険性があります。高市首相が言っている「改革に、批判を恐れることなく果敢に挑戦していく」この姿勢が歴代の市長に欠如していたことが「真の要因」と考えます。 ③P6市長選挙において示される公約やマニフェストとあるが、前回まで2回の選挙は無投票になったせいか公約やマニフェストを見ていません。無投票でも発表してほしい。今からでも遅くないので現市長の公約やマニフェストを教えてください。 ④P9旧町別人口推計のグラフや旧町別人口推計の表の出典を明示しないと公文書としては不適切です。数値が信用できません。	A:記載(表現)を修正します	ご指摘のとおり、公文書として正確かつ分かりやすい表記とすることが不可欠です。本素案における人口推計グラフや各種データ表につきましては、「令和2年国勢調査に基づく独自推計」などの出典・根拠を明記するとともに、和暦と西暦の併記方法を整理・統一いたします。また、過去の総合計画において「痛みを伴う抜本的な構造改革」に踏み込めず課題を先送りしてきた反省を踏まえ、本計画では制約条件の理論(TOC)を取り入れ、課題の根本原因(ボトルネック)を見極めて経営資源を重点投入する姿勢を明記しております。 なお、マニフェスト(公約)の公表は法令上義務付けられているものではありません。一方で、市長選挙等で示される政策的方向性につきましては、無投票の場合であっても市議会での議論や審議会等での検討を経ることで、市民の意思を反映した計画へと調和させてまいります。
38		その他	令和8年7月17日全国知事会は人口減少への対応として、スマートシュリンク(賢い縮小)の視点で地方行財政を再構築すべきだとする宣言を採択したと報道がありました。この宣言を計画に反映すべきと考えます。	D:原案どおりとします	ご提案いただいたスマートシュリンクの考え方は、本市が掲げる「縮充」の考え方と方向性を同じくするものと考えています。人口減少時代に対応した具体的な施策については、今後策定する基本計画等の中で検討します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
39		その他	①市長選挙との関係性の箇所について、「市長選挙において示される公約やマニフェストは、市民の意思が示されたものと位置づけられる。」とありますが、ここ数年、選挙がない西予市にとっては、合っていない記述ではないでしょうか。また、市長だけでなく、市議会についても市民の意思が反映されているので、市長選挙だけこのような記述をされることには違和感があります。 ②P19の「各地域が持つ多様な資源(食・歴史・文化・風土)を単品として扱うのではない」という箇所の単品という表現に違和感があります。ここで挙げられている多様な資源は(資源という言葉も資本主義的ですが…)、私たちの暮らしの土台なので、単品という商品として扱うような言葉が使われることは残念です。 ③また、全体を通して「選択と集中」という文言が何度も使われていたのですが、どのテーマの何が優先されるべき課題かということがわかりづらく、結局何に優先的に取り組んでいくかがわかりにくいように思いました。行政の職員の方は、こちらの計画を元にお仕事を進められると思うので、もう少しわかりやすく整理された方が計画の実行性を高められるように感じました。また、市民にとってわかりやすい計画になるように思います。	A:記載(表現)を修正します	マニフェスト(公約)の公表自体は法令上義務付けられているものではありませんが、ご意見を踏まえ、市長公約のみならず、市民の多様な意見を代弁する市議会での議論や審議会等での検討を経ることで、市民の意思を計画へ調和・反映させる旨を明記いたしました。 また、「単品」など誤解を招きやすい表現を取りやめ、地域の生活や風土の繋がりを表す適切な記載へと改めております。 なお、「選択と集中」における優先課題の整理につきましては、基本構想において市全体の定性的な将来像と重点分野(TOCによるボトルネック等)を示し、具体的な優先事業や数値目標については、下位計画である基本計画や実施計画の中で明確に整理し、職員・市民双方にとって分かりやすい体系としてまいります。
40	その他	その他	全体を通じて「人権(福祉)」「環境」の視点が抜け落ちていないでしょうか。時代錯誤で、新しい「まちづくり」計画とはいえないのではないかと。 とくに疑問に感じるのが「四国西予ジオパーク」随所で強調しているが「国際的なサステナブル観光の核」を目指すならば「環境」を軸として、まちづくり、ビジネス、観光を繋げる、重層的な構想があるべきでないかと。	B:基本計画等の中で検討します	人権の尊重や自然環境の保全は、まちづくりを進めるうえで重要な基盤であると考えています。「基本構想」では計画全体の理念や大枠の方向性を示すにとどめますが、ご指摘の人権擁護や環境保全、ジオパークを軸とした環境・観光等が重層的につながる具体的な施策は、今後策定を進める「基本計画」や「実施計画」の中で検討してまいります。
41		その他	財政状況が厳しい中で、事業の「選択と集中」を進める必要性については理解できます。 一方で、自然環境の保全、教育、文化の継承、地域コミュニティづくり、地域の担い手育成などは、短期間では成果が数字として表れにくい取組です。しかし、それらは10年、20年後の地域の暮らしや文化を支える基盤になります。 事業を評価する際には、利用者数や経済効果、短期的な費用対効果だけでなく、 ・自然環境への価値 ・教育的価値 ・文化や景観を継承する価値 ・地域コミュニティを維持する価値 ・将来世代に対する価値 についても評価するという考え方を、計画の中で示していただきたいと思えます。 「縮充」という考え方を実現するためにも、必ずしも経済的な規模の拡大にはつながらなくても、「地域に残す価値のあるもの」をどのように判断するかが重要になると考えます。	B:基本計画等の中で検討します	ご指摘のとおり、自然環境や教育、文化、地域コミュニティなどは短期的な数値だけでは評価できない重要な価値です。評価のあり方については、今後策定する基本計画等の中で検討します。

第3次西予市総合計画 基本構想(案)に寄せられた意見と市の考え方

No	大分類	対象項目	市民から寄せられた意見	市の考え方	
				回答	市の考え方
42	その他	その他	p8～9の資料に【選択と集中】がでてくるが、最適規模への縮小との記載もある。縮小とは、施設や活動の規模を縮めるということだろうか。冒頭のテーマで「人口が縮小しても」とあったので、縮小にかかる言葉は人口なのか規模なのか、はたまた、広い土地面積以外の全てなのか、分かりにくいと文章をシンプルに整えてほしい。締めくくりにある「地域の質」についても、どのような質なのか何も分からない。分からないのに果敢な舵取りに挑戦すると書かれていて怖い。	A:記載(表現)を修正します	「縮小」の対象を明確にするため、本計画では、人口減少を前提に公共施設やインフラの適正化を図る一方、医療・福祉・教育など暮らしに必要なサービスの維持・向上を目指すという、本市の「縮充」の考え方が伝わる表現となるよう見直します。 また、本計画でいう「地域の質」とは、人口や施設数などの量的な拡大ではなく、地域コミュニティのつながりや、医療・福祉・教育などの暮らしを支える機能、安全・安心に暮らせる環境など、市民の暮らしやすさを高めることを指しています。 なお、「果敢な舵取り」とは、人口減少や厳しい財政状況などの課題に正面から向き合い、必要な見直しや新たな取組を進めていく姿勢を表したものです。
43		その他	【3未来に向けて解決すべき市の重要課題】の図には、危機的な財政の図が必要構造として。また、人口推移を図で説明するならば、目標人口などの数値を設け、それに対する計画を示してほしい。	D:原案どおりとします	課題関連図は、人口減少につながる構造的な課題を分かりやすく示すことを目的として作成しています。また、基本構想は将来の方向性を示す計画であるため、目標人口を含む具体的な数値目標や管理指標については、今後策定する基本計画や関連計画の中で検討してまいります。そのため、課題関連図は原案どおりとします。
44		その他	①p6,「3人事評価の部分について、職員の能力向上と意欲の向上が不可欠である。」とあるが、問題の共有と役割分担、フィードバックが総合計画の実効性を確保するために不可欠だと思う。職員個々の向上は環境によって発揮されると思うため、わざわざ記載する必要性は低い。能力主義はやめてほしい。 ②p7,6財政危機脱却プランとの連動の説明箇所に「財政があってこそその行政」とある。金は何事にも優先されるのは、暮らす人々の生活を後回しにしても良いという印象を受けた。財政破綻しているのか、破綻寸前なのか、現在地をはっきりさせ、赤字体質を改善するためにどのような戦略でいこうとしているのか教えてほしい。現段階で計画書に細々かくことはできないと思うが、ただただ財政を優先しないと計画は実効困難というのは、説明が不足しているように思える。	A:記載(表現)を修正します	計画の実効性を確保し、職員が持てる力を十分発揮するためには、個人の能力や努力だけに依存するのではなく、組織的なサポート体制が不可欠です。そのため、単に職員個人の能力向上を求める表現から、課題や問題の共有、適切な役割分担、そして納得感のあるフィードバックが機能する「組織として支える環境づくり」を重視した記述へ修正いたします。 また、本来の目的である市民生活や福祉を後退・軽視させるような誤解を与える表現(「財政があってこそその行政」)は削除いたします。本市の財政は財政調整基金の減少など非常に厳しい状況にありますが、令和8～10年度の3年間で「財政危機脱却プラン2025」に基づく集中改革期間と位置付け、公共施設の最適化や財政・組織改革を重点施策と連動させて推進し、持続可能な行財政基盤の確立を目指してまいります。